



津田左右吉物語

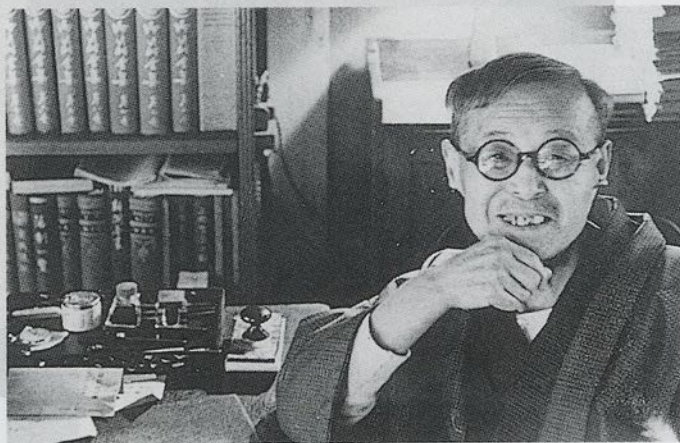
第15回

研究Ⅱ日常生活

左右吉の日常生活をよく知っている人々は、「博士の生活は研究と一体になっていた」と話しています。どこまでが日常生活で、どこからが研究なのか分けがたいというのです。規則正しい日課で毎日を過ごしていたことは、津田家を訪問した人々のよく見聞されたところでした。

人間、70歳・80歳ともなれば、肉体的にも精神的にも弱点が出て、気ばかりがあせり、意のままにならないのが凡人の常でしょう。

しかし、左右吉は83歳で『文学に現はれたる国民思想の研究 第四巻』の大改訂版を出し、最終巻執筆への強い意欲も示していました。85歳で改訂版『左伝の思想的的研究』を刊行、86歳で『歴史学と歴史教育』を著しました。慶応義塾大学塾長を勤めた教育家の小泉信三氏は「学者の老健」としてこの大著を称たたえました。88歳で『思想・文芸・日本語』を刊行したほど、研究は晩年まで続けられたのです。



▲書斎にて